

古代文化センター令和元年度調査研究年報

■古代文化センター企画運営委員会

〔1〕第1回（令和元年9月4日（水） 於：松江市殿町 サンラポーむらくも）
出席委員 7名（佐藤、坂井、仁藤、引野、俵木、山村桃、山本）

(1) 議 事

① 基礎研究

- 1) 考古基礎資料調査研究
- 2) 風土記調査研究
- 3) 祭礼行事調査研究
- 4) 中世・近世史料の多角的研究

② テーマ研究

- 1) たたら製鉄の成立過程
- 2) 山陰弥生文化の形成過程
- 3) 『日本書紀』と出雲観に関する研究
- 4) 山陰における古代交通の研究
- 5) 出雲神楽の研究
- 6) 中世石見における在地領主の動向
- 7) 古代出雲と吉備の交流
- 8) 近世近代の交通と地域社会経済
- 9) 令和2年度開始予定のテーマ研究

(2) 報 告

- ① 古代文化情報発信事業
- ② 古代歴史文化に関する共同調査研究事業
- ③ 古代文化の郷「出雲」調査事業・史跡出雲国府跡発掘調査
- ④ 古代出雲歴史博物館での企画展実施状況

〔2〕第2回（令和2年3月27日（金） 於：松江市殿町 サンラポーむらくも）：中止
出席委員 8名（佐藤、久留島、坂井、関沢、仁藤、引野、山村亜、山本）

(1) 議 事

① 基礎研究

- 1) 考古基礎資料調査研究
- 2) 風土記調査研究
- 3) 祭礼行事調査研究
- 4) 中世・近世史料の多角的研究

② テーマ研究

- 1) 山陰弥生文化の形成過程
- 2) 『日本書紀』と出雲観に関する研究
- 3) 山陰における古代交通の研究
- 4) 出雲神楽の研究
- 5) 中世石見における在地領主の動向
- 6) 古代出雲と吉備の交流
- 7) 近世近代の交通と地域社会経済
- 8) 令和2年度開始予定のテーマ研究

(2) 報告

- ① 古代文化情報発信事業
- ② 古代歴史文化に関する共同調査研究事業
- ③ 古代文化の郷「出雲」調査事業・史跡出雲国府跡発掘調査
- ④ 古代出雲歴史博物館での企画展実施状況

■調査研究事業

〔1〕基礎研究

(1) 考古基礎資料調査研究

① 墓制調査

昨年度に引き続き、西百塚山古墳群（松江市大草町・八雲町所在）中で最大の円墳である西百塚山19号墳の発掘調査を実施した。調査期間は2019年5月8日～5月31日で、今年度はあらたに2箇所の特レンチを設けた。墳丘構造・築造時期等の基礎情報を得ることを目的とした内容確認調査である。調査期間中に客員研究員による現地指導会を複数回おこなったほか、5月25日には現地説明会を開催した。昨年度分とあわせて計4箇所の特レンチ調査の結果、墳丘は地山を削り出して墳頂部のみ盛土をする構造で、葺石はないことが確認できた。墳丘は当初の想定以上に、後世の耕作等により大きく改変されており、明確なテラス・墳裾も確認できなかった。したがって、復元される墳丘規模は39～45mと幅があり特定が難しい。今年度の特レンチからは埴輪が出土せず、もともとごく少量の埴輪が局所的に樹立されていたものと想定される。昨年度出土した埴輪の特徴から、5世紀前葉～中葉に築造された可能性があるが、断片的な資料であり確定はできない。西百塚山19号墳の発掘調査は以上で終了したが、同古墳を含む大草丘陵上の古墳群については、分布調査の整理作業を引き続き進めている。

また、今年度より新たに、前期古墳の基礎的研究に着手した。これは将来的なテーマ研究事業の立ち上げを視野に、前期古墳に関する基礎資料の蓄積と問題点の整理を目的としたものである。当面のフィールドを松江市鹿島町の講武平野周辺に定めて、今年度は①丘陵上の古墳群分布調査と、②名分丸山古墳の三次元測量調査を実施した。①については、これまで分布調査がおこなわれていなかった南講武小谷地区丘陵（草田遺跡南側）の踏査をおこない、あらたに古墳群の存在を確認した。また、前方後円墳を含み古相の古墳群とみられる鶴灘山古墳群の踏査、現地検討をおこなった。さらに②名分丸山古墳については、地上レーザースキャナにより地表面を計測し、詳細な三次元データの作成をおこなった。それに基づく墳形の詳細な検討により、後方が長方形で墳頂が広い点、前方部が後方部の裾よりもさらに低く取り付く点、などの墳形の特徴が明らかになった。かつては「前方部がバチ形に開くことから、箸墓古墳段階の古墳」との評価があったが、その系譜・築造時期に関する重要なデータが得られた。

（吉松優・守岡・角田・大庭・間野・深田・稲田・岩崎・松尾・原田・岩本）

② 基礎資料調査（出土品再整理）

本事業は、過去に島根県教育委員会が発掘調査を実施し、現在埋蔵文化財調査センターで収蔵している出土品のうち、報告書非掲載遺物を中心とした再整理をおこない、その内容を明らかにするとともに、県民をはじめ一般に広く利用できるようデータベース化をはかることを目的としており、今年度が8年目となる。

平成29年度から、弥生時代の拠点集落として著名な松江市西川津町に所在する朝酌川遺跡群の出土品再整理をおこなっており、今年度は『西川津遺跡Ⅰ』（島根県教育委員会1980）調査分と『西川津遺跡Ⅱ』（島根県教育委員会1982）調査分の出土品について分類と実測及びデータ入力をおこなった。来年度はこれらについての所見をまとめた報告書刊行を予定しており、それに向けた体裁・内容の検討をおこなった。

（深田・岩崎・守岡・稲田・是田・原田・勝部・岩本）

③ 生産遺跡調査（県内鑄造遺跡・鋳物師関連資料集成、古代窯業生産）

a. 県内鑄造遺跡・鋳物師関連資料集成

島根県内の鑄造遺跡（遺構・遺物）や鋳物師関連の伝世資料などを集成・調査し、古代から近代にかけての鑄造品の生産・流通の研究をする上での基礎資料をまとめることを目的とする。前年度に引き続き松江市玉湯町有ノ木遺跡や出雲市斐川町尾田瀬Ⅱ遺跡の鑄造関連遺物の資料調査・整理作業をおこなった。

b. 古代窯業生産（須恵器・埴輪等の産地分析）

県内の須恵器・埴輪について、埋蔵文化財調査センターに設置している蛍光X線分析機器で胎土分析をおこない、遺物の型式学的研究とあわせ産地や製品の流通について検討するための基礎データを得ることを目的とする。

前年度に引き続き、岡山理科大学白石純氏が過去に分析した大井窯跡群明曾支群（7世紀第4四半期～8世紀）、大井窯跡群廻谷支群（7世紀第4四半期～8世紀）、蛇喰遺跡（7世紀後半～9世紀）、木舟窯跡（9世紀後半）の分析試料を借り受けて埋蔵文化財調査センターで再測定を実施した。同資料群については測定を完了し、その結果について白石氏より調査指導を受けながら検討をおこなった。窯跡資料である大井窯跡群と木舟窯跡では窯ごとの違いがみられた。蛇喰遺跡の資料は窯跡資料であるとは言い難いが、大井窯跡群、木舟窯跡群とは異なったまとまりがみられ、それらの窯とは別の同じ窯でつくられた可能性が高いことがわかった。

今後は島根県が所蔵する出雲地域の須恵器窯出土品について胎土分析を進めることを計画しており、門生山根1号窯、門生黒谷1号窯、渋山池古墳群1号窯、古曾志平廻田3号窯について、分析対象とする資料の選別をおこなった。当面は、出雲地域では初現期（古墳時代中期）の窯である門生山根1号窯について測定を計画しており、選別した資料について実測・写真撮影等の準備作業を進めている。

（上山・角田・稲田・岩本・松尾・原田・是田・目次・東山）

④ 青銅器調査

a. 荒神谷遺跡青銅器調査

① 銅剣調査 文化庁がおこなう荒神谷遺跡出土青銅器の保存修理事業にあわせて、考古学的知見の追加・修正作業を実施するもの。今年度はH30年度に保存修理された銅剣35本を対象に、実測図の修正、細部写真の撮影などを実施した。また、R2年度をもって文化庁の保存修理事業が完了することから、R3年度にはこれまでの調査成果をまとめた報告書の刊行を予定しており、今年度はそれに向けた報告書内容・編集方針について検討会をおこなった。

② 銅矛調査 客員研究員村田裕一氏による。荒神谷遺跡銅矛の研磨（研ぎ分け）に関する研究をH29年度から本事業に位置づけて実施している。今年度は15号矛をおこなった。

b. 三木文雄氏寄贈資料整理

故三木文雄氏収集の青銅器関連資料について昨年度までに基礎的な整理作業を完了しており、今年度、7月から公開を開始した。7月8日に報道発表をおこない7月10日から古代出雲歴史博物館で速報展示をおこなった。

（増田・澤田・岩橋・東山・神柱・原田・松尾）

⑤ 客員共同検討会

・客員研究員共同検討会（2019年12月20日 松江市鹿島公民館・名分丸山古墳現地ほか）

(2) 風土記調査研究

① 風土記校訂・注釈事業

今年度は昨年度まで実施した校訂・注釈の再検討をおこなった。特に注釈の再検討は項目も多く、時間を要した。

a. 『出雲国風土記』校訂・注釈書作成 内部作業会

第1回（4月25日）巻首・意宇郡校訂の検討

第2回（5月23日）意宇郡校訂の検討

第3回（6月12日）島根郡校訂の検討

第4回（6月27日）秋鹿郡～出雲郡校訂の検討

第5回（7月8日）出雲郡・神門郡校訂の検討

第6回（7月18日）神門郡～仁多郡校訂の検討

第7回（8月1日）仁多郡・大原郡校訂の検討

第8回（8月6日）大原郡・巻末校訂の検討

第9回（10月10日）郡注釈の検討

第10回（10月29日）意宇郡の郷注釈の検討

- 第11回（11月14日）島根郡～楯縫郡の郷注釈の検討
- 第12回（11月26日）出雲郡～仁多郡の郷注釈の検討
- 第13回（12月9日）仁多郡・大原郡の郷、神戸注釈の検討
- 第14回（12月24日）駅・寺院・意宇郡の神社注釈の検討
- 第15回（1月10日）意宇郡～楯縫郡の神社注釈の検討
- 第16回（1月27日）総説および出雲郡の神社注釈の検討
- 第17回（2月7日）総説および出雲郡～大原郡の神社注釈の検討
- 第18回（2月21日）郡司・池江注釈の検討
- 第19回（2月27日）島海注釈の検討
- 第20回（3月23日）巻首・河川注釈の検討

b. 第10回『出雲国風土記』校訂注釈本作成指導委員会（2019年9月15日～16日、於：古代文化センター）

『出雲国風土記』校訂の再検討

（指導者）佐藤信（大学共同利用機関法人人間文化研究機構）、荒井秀規（藤沢市郷土歴史課）、
伊藤剣（明治大学）

（オブザーバー）高橋周（出雲市）

（参加者）合計12名

c. 第11回『出雲国風土記』校訂注釈本作成指導委員会（2020年3月28日～29日、於：古代文化センター）：

延期

『出雲国風土記』注釈の再検討

（指導者）佐藤信（大学共同利用機関法人人間文化研究機構）、荒井秀規（藤沢市郷土歴史課）、
伊藤剣（明治大学）

（オブザーバー）高橋周（出雲市）

② 基礎資料収集調査

a. 風土記写本調査

勸修寺家本 写本調査（2019年6月26日、於：古代出雲歴史博物館）

（参加者）佐藤雄一・吉永壮志・野々村安浩

出雲弥生の森博物館本 写本調査（2019年11月8日、於：出雲弥生の森博物館）

（参加者）佐藤雄一・吉永壮志・野々村安浩

(3) 祭礼行事調査研究

島根県内の祭礼行事および民俗分野に関わる事象について、調査研究と記録作成を行い、その具体的内容と全体的性格を明らかにする。

① 民俗芸能等調査・記録作成

a. 三谷神社投獅子舞の調査・記録映像の編集（石山、調査指導：笹原）

「三谷神社投獅子舞」（出雲市大津町、毎年11月3日開催）は、昭和62年に島根県の無形民俗文化財に指定された民俗芸能である。この芸能が奉納される三谷神社の例大祭の模様を平成30年度に撮影を実施したが、今年度は映像の編集を実施し、以下のBDおよびDVDを制作した。

① 〈公開編〉……「三谷神社の獅子舞」として、約30分の番組に編集したもの。（disc 1 枚）

② 〈短編〉……「三谷神社の獅子舞」として、平成30年度の祭礼行事の記録映像を約10分のダイジェスト版に編集したもの。（disc 2 枚）

③ 〈記録編〉……獅子舞を伝承する二つの地区それぞれの神事華の準備、獅子舞の稽古風景、例大祭当日の巡行中の様子、模範演技等を収録したもの。（disc 3 枚）

b. 唐川神楽の記録映像の撮影・編集

令和元年度は、出雲市指定無形民俗文化財の「唐川神楽」（出雲市唐川町）の写真と映像による記録撮影を行った。

「唐川神楽」は平成30年に出雲市の無形民俗文化財に指定された神楽で、現在は隔年11月2日に行われる

韓竈神社（出雲市大津町）の例大祭前夜に保持演目が全て奉納される。これに合わせて記録映像の撮影を実施し、あわせて奉納風景の写真撮影も行った。また、映像の編集も実施し、以下のBDおよびDVDを制作した。（石山・面坪）

〈記録編〉……例大祭で奉納された全演目をほぼノーカットで収録したもの。

② 民俗資料収集調査

a. 三谷神社投獅子舞に関する用具類調査・撮影

民俗芸能調査・記録作成と併行して実施。（石山・中安・面坪）

2019年5月12日 資料調査

2019年10月10日 上来原地区の道具類撮影

2019年10月21日 下来原地区の道具類撮影

2019年12月16日 資料調査

b. 須我神社史料調査

須我神社は雲南市大東町須賀に鎮座する旧県社。また、風土記所載の「須我社」比定社でもある。平成26年度から、基礎研究「中世・近世史料の多角的研究」と合同で同社の史料調査を実施しており、まずは全体像を把握するために目録作成を進めている。平成30年度からは、テーマ研究「出雲神楽の研究」の構成員も参加し、祭礼行事・芸能に関わる史料の詳細調査も行っている。（石山・中安・面坪・倉恒）

c. 『石見国神社記』の翻刻

同書は明治初年に実施された石見全域の神社調査をもとに、藤井宗雄が各社の社伝や棟札からの情報も加えて明治20年に完成させたものである。同書はこれまで山藤忠氏が『郷土石見』誌上で現江津市・浜田市域部分を翻刻したり、『桜江町誌』や『川本町誌』などが当該町域部分を翻刻したりはしているが、全体としては未刊行のままである。

今年度は邑智郡（上）の前半部を『古代文化研究』28号で報告している。（山崎）

③ 基礎調査

将来のテーマ研究を見通した予備調査の実施している。今年度からは、「島根地域の祭礼行事と民俗芸能の変容」というテーマのもと、昭和63年に実施した民俗芸能緊急調査時に調査された事例については追跡調査をし、当時対象とならなかった事例については確認を行い、島根地域の祭礼行事と民俗芸能を一覧化した。

（石山・藤原）

④ 客員研究員共同検討会（令和2年1月25日（土） 於：島根県古代文化センター）

令和元年度の事業報告および令和2年度の事業計画について協議・検討。

《客員研究員》山路興造（民俗芸能学会）・笹原亮二（国立民族学博物館）・山崎亮（島根大学）・

久保田裕道（東京文化財研究所）

《県職員》石山・中安・目次・浅沼・品川・倉恒

(4) 中世・近世史料の多角的研究

急速に史料が散逸しつつある現状を踏まえ、前年度に引き続き島根県の中世・近世の歴史を特徴づける、県内外の公的機関・個人が所有する古文書等の調査を行うとともに、情報発信に努めた。

① 客員研究員共同検討会

2019年12月9日 古代出雲歴史博物館

（議題）今年度事業の実施状況の報告、次年度事業に係る検討等

（参加者）客員研究員：西田友広（東京大学史料編纂所）、小林准士（島根大学法文学部）

県職員：中安、目次、石山、面坪、岡、矢野、倉恒、濱田、伊藤大

② 分野別史料研究

a. 神社・寺院史料研究

2019年4月16日・5月13日・6月17日・8月28日・11月18日 須我神社（雲南市）文書の調査

2019年5月24日 聖徳寺（浜田市）所蔵資料の概要調査・撮影

2019年5月30日 永明寺（津和野町）所蔵資料の概要調査・撮影

- | | |
|------------------------|--------------------------------------|
| 2019年8月20日 | 熊野神社（広島県庄原市）絵巻調査 |
| 2019年9月5日 | 北島家古記録の調査 |
| 2019年12月10日～13日 | 北島家古記録の整理・撮影（古代出雲歴史博物館、東京大学史料編纂所と共同） |
| 2019年6月24日・7月17日・12月2日 | 清水寺（安来市）文書の整理（島根県立大学と連携） |
- b. 武家・公家史料研究
- | | |
|------------|---------------------------|
| 2019年4月24日 | 中世の在地領主関係文書の調査（島根大学附属図書館） |
| 2019年7月2日 | 中世の在地領主関係文書の調査（山口大学附属図書館） |
- c. 在地史料研究
- | | |
|----|--------------------------------|
| 随時 | 古代出雲歴史博物館所蔵史料の整理・目録作成（大田恒松家文書） |
| 随時 | 古代出雲歴史博物館寄託史料の整理（出雲市高橋家資料） |
- ③ 中世史料集成
- 『萩藩閥閥録』から抽出した中世島根県関係記事の目録作成（継続中）

〔2〕テーマ研究

(1) たたら製鉄の成立過程

1) 目的

本研究は、考古基礎研究事業の生産遺跡調査「島根県における古代・中世製鉄遺跡の基礎的調査」（平成24～27年度）の成果を継承するもので、古代から近世初頭にかけての日本列島各地における鉄生産の様相の比較、製鉄技術の展開、鉄及びその他製品の生産・流通状況などを検討することによって、たたら製鉄の成立過程や出雲・石見地域を含む中国地方が列島随一の鉄生産地へ発展した歴史的背景を明らかにすることを目的としている。

2) 活動概要

本年度は研究事業の最終年度で、客員研究員共同検討会では論集の執筆予定内容の研究報告と研究の総括に向けた議論を行った。2020年3月には、研究成果をまとめた論集を刊行した。なお、本研究の成果を公開するものとして、島根県立古代出雲歴史博物館において企画展「たたら 一鉄の国 出雲の実像一」を開催した。

（東山・松尾・目次・中安・岩橋・角田・宮本）

・第6回客員研究員共同検討会

2019年8月26日 於）埋蔵文化財調査センター

【研究報告】

松尾充晶「製鉄用木炭窯の地域性 ―中国地方の中世木炭窯―

角田徳幸「古代・中世精錬鍛冶と近世大鍛冶場の成立」

目次謙一「文献史料から見た中世から近世前期の鉄の生産・流通 ―石見山間地域を中心に―」

上梶 武「中世製鉄炉地下構造からたたら吹製鉄床釣りへの流れ」

徳安浩明「空中写真判読による鉄穴流し跡地の検出法の限界と可能性」

山崎一郎「近世の鋤押鑪と浜田藩」

佐竹 昭「田部家の鉄山証文・鉄穴証文の紹介 ―旧吉田村・民谷村を中心に―」

参加者 客員研究員3名、外部報告者4名、県職員6名、オブザーバー3名

・刊行物

島根県古代文化センター研究論集第24集『たたら製鉄の成立過程』 2020年3月

(2) 山陰弥生文化の成立過程

1) 目的

基礎研究の弥生時代の磨製石器（H15）及び木製品集成（H18）の成果を取り入れながら、縄文―弥生移行期の遺構、遺物の検討を軸に山陰地方の弥生文化の形成過程を明らかにし、北部九州で描かれている弥生文化モデルや国際的に描かれている農耕拡散モデルとの比較検討を行い、本地域の歴史的な位置づけを探る。

また、青銅器文化や四隅突出型墳丘墓の展開にみられる地域色豊かな山陰弥生文化発現の基層を明らかにす

る。

2) 活動概要

平成31年度は、これまでの検討会での研究報告及び課題点を踏まえながら、山陰地方の弥生文化形成過程の特徴及び段階的な様相を総括的に把握することを目的に進めた。

具体的には、全体的な時間軸の共有のため、弥生土器編年研究及び自然科学的な年代測を実施し、さらに農耕拡散の様相を時間軸で把握できるよう、編年基準となる土器群のレプリカ法による調査を行った。

また、墓制、朝鮮半島系などの他地域系統の土器の検討・調査を併せて実施した。

〔担当者〕原田敏照、是田敦、岩本真実、岩橋孝典、増田浩太、中川寧、今福拓哉

〔客員研究員〕秋山浩三、濱田竜彦、平郡達哉、田畑直彦、山崎頼人

3) 客員共同検討会

第1回客員共同検討会（2019年8月31日(土)・9月1日(日) 於：古代文化センター、埋蔵文化財調査センター）

中川 寧「西日本の人面付土器・人形土製品について」

今福拓哉「弥生前半期における墓壙上部の配石構造について」

岩本真実「出雲地域における弥生時代前半期の土器の変遷」

田畑直彦「石見部の弥生前半期の土器様相」

山崎頼人「出雲における無文土器調査の成果と課題」

全体討議、出土品の検討及び意見交換

参加者：客員研究員5名、職員9名、県内関係機関職員3名

第2回客員共同検討会（2020年3月21日(土)・22日(日) 於：古代文化センター）

平郡達哉「弥生開始期の墓制」

濱田竜彦「西伯郡大山町上野遺跡の遠賀川式土器」

田畑直彦「山陰地方における綾羅木・高槻系土器の様相」

山崎頼人「出雲市原山遺跡出土無文土器の検討」

丹羽野裕「田和山遺跡の位置付け」

原田敏照「種実圧痕調査成果及びAMS年代測定結果」

全体討議「山陰地方の弥生文化の形成過程—その過程・様相・特質—」

参加者：客員研究員5名、職員10名、県内関係機関職員4名

4) 資料調査等

2019年5月13日～16日：五丁遺跡、下山遺跡出土土器のレプリカ法調査

2019年6月8日～10日：朝鮮半島系無文土器（堀部第一・北講武氏元・矢野遺跡等）の資料調査

2019年6月24日～25日：綾羅木系土器（古屋敷・西川津・タテチョウ遺跡）の資料調査

2019年7月8日～10日：弥生土器（布田・中竹矢遺跡）の資料調査

2019年7月16日：弥生土器（布田遺跡）の資料調査

2019年7月10日・26日：古屋敷遺跡出土土器のAMS年代測定試料調査及び試料採取

2019年8月5日～7日：三田谷I遺跡、原田遺跡、古屋敷遺跡出土土器のレプリカ法調査

2019年9月17日～20日：西川津遺跡（鶴場地区）出土土器のレプリカ法調査

2019年10月7日～10日：西川津遺跡（鶴場地区）出土土器のレプリカ法調査

2019年11月5日～11日：西川津遺跡（鶴場地区）出土土器のレプリカ法調査

2019年11月14日～15日：五丁遺跡・西川津遺跡・三田谷I遺跡のレプリカのSEM観察撮影調査

2019年11月29日：西川津遺跡（鶴場地区）出土土器のレプリカ法調査

2019年12月4日～6日：西川津遺跡（鶴場地区）レプリカのSEM観察撮影調査

2019年12月14日～15日：出雲市所蔵資料（矢野・築山・原山遺跡）出土土器の資料調査

2019年12月19日：板屋Ⅲ遺跡、石台遺跡、西川津遺跡出土土器のレプリカ法調査、
弥生土器（中野美保遺跡）の資料調査

2019年12月21日～26日：出雲市所蔵資料（白枝荒神・天神・田畑遺跡）出土土器の資料調査

2020年1月6日～8日：弥生土器（山ノ神・宮内・布田・青木・中野美保遺跡）の資料調査

2020年1月15日～17日・2月13・14日：北講武氏元遺跡、堀部第1跡出土土器のレプリカ法調査
 2020年1月28・29日：弥生土器（経塚鼻遺跡）、土笛の資料調査
 2020年2月3日～5日：蔵小路西遺跡、板屋Ⅲ遺跡出土土器のレプリカ法調査
 2020年2月6・7・21日：矢野遺跡、石台遺跡、堀部第1遺跡等のレプリカのSEM観察撮影調査
 2020年2月19・20日：田和山遺跡、門田遺跡出土土器の資料調査
 2020年3月2日：板谷Ⅲ遺跡・蔵小路西遺跡のレプリカのSEM観察撮影調査

5) 関連研究会等参加

2019年10月26・27日：日本考古学協会2019年岡山大会・研究発表分科会Ⅰ
 「環境変化と生業からみた社会変動」 岡山大学

2019年11月17日：第191回九州古文化研究会・第4回弥生時代研究部会
 「土器からみた縄文から弥生～刻目突帯文土器期の現状と課題～」
 北九州市埋蔵文化財センター

(3) 日本書紀と出雲観に関する研究

1) 目的

古代出雲歴史博物館において企画展開催を予定する西暦2020年は『日本書紀』編纂1300年にあたることから、歴史的に出雲がどのような地域と観念されてきたのかという課題について、日本書紀を糸口に研究を行なう。その際の具体的視点は以下のとおり。

1. 日本書紀の出雲に関する記載に関し、それらが形成された歴史的背景を明らかにする。
2. 日本書紀を典拠とする“出雲観”が、その後の中近世神話や神道諸流、国学に与えた影響について、その内容を明らかにする。
3. 記紀や風土記の記載、神話、伝承が中近世の出雲社会にどのように受容され展開したのか、具体的に実態を明らかにする。

2) 活動概要

研究最終年となる令和元年度は、前年度までに引き続き調査・研究を行うとともに、報告書刊行および展覧会へ向けた準備を進めた。客員研究員共同検討会においては、前年度検討会での内容を受け、深めるべく、第5回では近代史学における「出雲」論や出雲大社周辺の諸活動等、多角的な視点から検討した。第6回では3年間の研究を総括すると共に、報告書刊行へ向けたスケジュールを確認した。また、令和2年度の企画展示に向けた資料調査・借用交渉も漸次実施した。

〔客員研究員〕 斎藤英喜（佛教大）、西岡和彦（國學院大）、伊藤剣（明治大）、高橋周（出雲市）

〔県職員〕 松尾・佐藤・品川・岡・林・平石・吉永・吉松大・濱田・面坪

・第5回客員共同検討会

2019年9月11日～12日 於) 竹島資料室研修室

佐藤雄一「論点整理・1850～1950の「出雲観」史」

工藤泰子（島根県立大学）「出雲大社と近代観光 ―鉄道敷設との関係を中心に―」

田中 聡（立命館大学）「近代史学からみた「古代出雲」観の変遷」

松長直道（出雲大社周防分院）「近代神社制度における出雲大社、神葬祭」

斎藤英喜「折口信夫にとって「出雲」とはなにか―近代神道史の文脈のなかで―」

・第6回客員共同検討会

2020年3月9日～10日 於) 竹島資料室研修室

平石 充「中世出雲神話とその前提」

西岡和彦「自重館文庫と近世神道書」

高橋 周「近世出雲における出雲国風土記の受容」

佐藤雄一「『日本書紀』と出雲観の研究」3年間の総括」

(4) 山陰における古代交通の研究

1) 目的

全国で唯一、国単位としての詳細な記載が残る『出雲国風土記』の交通施設（道路・駅・橋・津済・剝・烽その他）の復元を試みる。

また、古代における交通制度、いわゆる駅伝制・情報伝達（計会帳ほか）・剝の制度・国司の交通、水上交通などを、地域に即して具体的に明らかにする。

古代のさまざまな条件に規定された、中央－周縁や地域間の「交通」の特色を明らかにする。（1）文化の伝播、（2）古代的な物流、（3）輸送業者の存在などを検討する。

2) 活動概要

今年度は、『出雲国風土記』にみえる道路の復元や里程の検討、水上交通の検討、山陰道の成立時期の検討、山陰地域の道路関連遺構の検討を行った。史料・資料収集については、官衙、集落、条里遺構などの道路関連遺構の収集と交通関係論文掲載の史料収集を行った。

〔担当者〕 是田・吉永・平石・佐藤・野々村・橋本・林・吉松大・久保田

〔客員研究員〕 大橋泰夫（島根大学）、近江俊秀（文化庁）、中村太一（北海道教育大学）、市 大樹（大阪大学）

3) 客員共同検討会

第3回客員共同検討会（2019年9月22日 於：竹島資料室研修室）

橋本 剛「古代「山陰道」の成立をめぐる研究の現状と課題」

吉永壮志「日本海地域の水上交通」

平石 充「出雲国風土記の道路里程について」

久保田一郎「備後国境付近の在南道」

是田 敦「出雲国府周辺の古代遺跡と地域計画（2）」

参加者 客員研究員4名、県職員13名、オブザーバー5名

第4回客員共同検討会（2020年2月11日 於：鳥取市青谷総合支所）

近江俊秀「考古学から見た山陰道駅路の特質」

中村太一「枉北道復元試論」

橋本 剛「古代「山陰道」の成立」

是田 敦「神門郡家周辺の地域計画」

坂本嘉和「因幡・伯耆の古代道」

古代山陰道推定地の現地見学

参加者 客員研究員4名、外部報告者1名、県職員9名、オブザーバー10名

(5) 出雲神楽の研究

1) 目的

古代文化センターでは、これまでに「中国地方各地の神楽比較研究（島根県の神楽を軸に）」（平成18～21年度）、「石見神楽と地域創造」（平成22～24年度）という、県内の神楽を対象にした2本のテーマ研究を行ってきた。

「出雲神楽の研究」はこれらのテーマ研究と基礎研究「祭礼行事調査研究」によって明らかにされた研究成果を踏まえ、これまで佐陀神能を中心として考えられてきた出雲地域の神楽について、各地域の神楽の歴史の変遷や祭礼との関係等から再検討し、出雲とその近隣地域の実態に即した「出雲神楽」の姿を明らかにするとともに、当該地域の神楽の特色を探ることを目的とする。（平成30～令和3年度）

2) 活動概要

研究2年目の令和元年度は、主として松江市、出雲市、飯南町等を中心に、史料・道具類の調査・撮影等と例祭の見学等を実施した。調査を通じて、各神楽団体の活動実態や伝承状況を把握するとともに、神楽面の比較や演目等の分析から各地域の特色について検討した。また、昨年度より継続中の出雲地域の近世以降の祭礼・神楽関連史料の所在確認と調査を進め、出雲神楽の近世から近現代までの上演機会や演目等の歴史の変遷や個別具体的な状況の把握に努めた。

〔担当者〕石山祥子、中安恵一、面坪紀久、浅沼政誌、品川知彦、藤原宏夫
〔客員研究員〕山路興造、中野洋平、錦織稔之

3) 客員共同検討会

第3回客員共同検討会(2019年9月20日 於:古代文化センター)

〔研究報告〕

山路興造「佐陀神能」再考」

中安恵一「神能道具記録」に見る幕末における大原郡の神能」

藤原宏夫「神楽能「天神」について」

錦織稔之「近世石見銀山領邇摩郡・安濃郡における出雲神楽の浸透」

参加者:客員研究員3名、職員8名

第4回客員共同検討会(2020年2月21日 於:古代文化センター)

小林准士「近世出雲の神職組織と神楽」

小原 清「報告 雲南市吉田町の民俗芸能調査」

面坪紀久「多伎藝神社所蔵神楽関連資料の紹介」

参加者:客員研究員3名、職員4名、ゲストスピーカー2名

4) 資料調査等

2019年4月6~7日 行波の神舞見学 於:山口県岩国市行波

2019年4月16日 文書調査・撮影 於:須我神社(雲南市大東町須賀)

2019年4月19日 比布智神社文書調査・撮影 於:島根県立図書館(松江市殿町)

2019年4月23日 比布智神社文書調査・撮影 於:島根県立図書館

2019年4月24日 亀尾神能見学 於:持田神社(松江市西持田町)

2019年4月29日 出雲大社教神代神楽本部(海潮山王寺神楽)見学 於:出雲大社(出雲市大社町杵築東)

2019年4月29日 神西神楽見学 於:佐伯神社(出雲市神西沖町)

2019年5月3日 直会祭見学 於:佐太神社(松江市鹿島町佐陀宮内)

2019年5月5日 伊野神楽見学 於:出雲大社

2019年5月6日 見々久神楽見学 於:出雲大社

2019年5月13日 文書調査・撮影 於:須我神社

2019年5月15日 伊野神楽道具類調査 於:出雲市野郷町内

2019年5月16日 出雲大社教神代神楽本部(海潮山王寺神楽)見学 於:出雲大社

2019年6月15日 大原神職神楽見学 於:古代鉄歌謡館(雲南市大東町中湯石)

2019年6月17日 文書調査・撮影 於:須我神社

2019年7月14日 祇園さん(悪切神事)見学 於:須義神社(松江市美保関町菅浦)

2019年7月16日 旧揚町神楽方所蔵面調査 於:塩冶コミュニティーセンター(出雲市塩冶町)

2019年7月25日 悪切神事見学 於:白瀧天幡宮(松江市天神町)

2019年7月27日 祭典楽見学 於:神崎神社(鳥取県琴浦町赤碕)

2019年8月8日 展示見学、資料調査 於:鉄の歴史博物館(雲南市吉田町)ほか

2019年8月8日 槻屋神楽見学 於:雲南市木次町

2019年8月20日 原田神楽衣装方所蔵道具類調査 於:出雲市佐田町原田

2019年8月22日 莫蔭替祭見学 於:須我神社

2019年8月24日 神楽見学(万九千・乙立・馬木) 於:立虫神社(出雲市斐川町併川)

2019年8月28日 文書および神楽面調査・撮影 於:須我神社

2019年9月3日 奥飯石神楽保存会見学 於:塚原八幡宮(飯石郡飯南町野萱)

2019年9月4日 見々久神楽保持者会見学 於:御崎神社(出雲市見々久町)

2019年9月7~8日 「東九州神楽人の祭」展・神楽公演見学 於:九州国立博物館(福岡県太宰府市)

2019年9月25日 莫蔭替神事・佐陀神能見学 於:佐太神社

2019年9月27日 鹿食の神事見学 於:須我神社

2019年9月29日 帝釈峡神楽共演大会見学 於：帝釈峡コスモドーム（広島県神石郡神石高原町）
 2019年10月3日 亀尾神能見学 於：賣豆紀神社（松江市雑賀町）
 2019年10月5日 荒茅神楽見学 於：荒茅集会所（出雲市荒茅町）
 2019年10月6日 万久千立虫神社神代神楽見学 於：万九千神社
 2019年10月9日 悪切神事見学 於：日御碕神社（松江市美保関町笠浦）
 2019年10月12日 小田神楽見学 於：出雲市多伎町小田
 2019年10月13日 民谷神楽見学 於：王子神社（雲南市吉田町民谷）
 2019年10月13日 宇那手神楽見学 於：出雲市宇那手町
 2019年10月15日 七座神事見学 於：給下八幡宮（雲南市三刀屋町給下）
 2019年10月16日 日和大元神楽見学 於：桜井神社（邑智郡邑南町日和）
 2019年10月20日 大注連神事、蛸舞式神事見学 於：福岡神社（鳥取県西伯郡伯耆町）
 2019年10月25日 見々久神楽見学 於：御崎神社
 2019年10月26日 原田神楽見学 於：風土神社（出雲市佐田町原田）
 2019年10月26日 大土地神楽見学 於：大土地荒神社（出雲市大社町杵築西）
 2019年10月27日 下蚊屋荒神神楽見学 於：湊山公園（鳥取県境港市）
 2019年11月2日 七座神事見学 於：赤穴八幡宮（出雲市大社町杵築西）
 2019年11月2日 唐川神楽見学 於：お茶の里唐川館（出雲市唐川町）
 2019年11月3日 外園神楽見学 於：外園幸神社（出雲市西園町）
 2019年11月3日 奥飯石神楽見学 於：赤穴八幡宮
 2019年11月13日 棟札調査・撮影 於：布須神社（雲南市加茂町延野）
 2019年11月14日 奥飯石神楽見学 於：波多神社（雲南市掛合町波多）
 2019年11月16日 備中神楽見学 於：奴可神社（広島県庄原市東城町小奴可）
 2019年11月18日 文書調査・撮影 於：須我神社
 2019年11月21日 奥飯石神楽見学 於：塚原八幡宮
 2019年11月23日 原田神楽見学 於：須佐神社
 2019年12月6日 文書調査・撮影 於：須我神社
 2019年12月16日 史料調査・撮影 於：島根大学（松江市西川津町）
 2019年12月18日 文書調査 於：給下八幡宮
 2019年12月20日 美保神社史料（マイクロ）調査 於：國學院大學（東京都渋谷区）
 2019年12月29日 小伊津の神楽（稽古）見学 於：小伊津集会所（出雲市小伊津町）
 2019年12月30日 小伊津の神楽（本ならし）見学 於：小伊津集会所
 2020年1月1日 宅野子供神楽見学 於：仁摩伝統芸能伝承館（大田市仁摩町宅野）
 2020年1月2日 鶴峠のシャギリ見学 於：出雲市大社町鶴峠
 2020年1月2日 鷺浦のシャギリ見学 於：出雲市大社町鷺浦
 2020年1月25日 民俗芸能公演「出雲の神楽」見学 於：国立劇場（東京都千代田区）
 2020年2月23日 第15回雲南神楽フェスティバル見学 於：チェリヴァホール（雲南市木次町）

5) 関連研究会等参加

2019年7月28日 中国地方神楽研究会 於：吉田健康福祉センター（雲南市吉田町）
 2019年12月22日 「神楽の中世的展開とその変容」第2回研究会 於：佛教大学（京都市北区）

(6) 中世石見における在地領主の動向

1) 目的

益田氏と吉見氏の対立関係を基軸として、次の2点を文献・考古双方の視点から考察する。

1. 政治面では、幕府や大内氏など西中国・九州地方北部の大名と益田氏と吉見氏との関わりにも留意して、中世における西石見の政治・軍事動向を明らかにしたい。
2. 経済面では、益田氏と吉見氏が争った高津川の権益、さらには東アジア規模で展開する交流・交易によ

る権益等にも視野を広げて、両氏の経済基盤を明らかにしたい。

2) 活動概要

今年度は吉見氏の政治動向や、その勢力圏の遺構・遺物の様相を明らかにする目的で、文献・土師器・流通・城館の資料を収集した。検討会等での議論を経て、益田氏とその関連地域など他地域との比較・検討を行い、吉見氏とその勢力圏の特色を描き出すことに努めた。

活動として、中世土師器・防長型瓦質土器・出土銭貨・石造物（とその石材）の事例収集を島根県西部や山口県東部で行い、その変遷や他地域との比較を念頭に検討した。また、吉見氏関係史料を収集し、基礎的情報の整理と共有を図った。スタッフが共同研究員として参加した昨年度東京大学史料編纂所一般共同研究の「中世石見国高津川流域の史料調査と研究」にかかる成果の一部として、史料紹介等を公表した。

〔担当者〕 目次謙一、勝部智明、東山信治、倉恒康一、伊藤大貴、守岡正司、廣江耕史

〔客員研究員〕 久留島典子、川岡 勉、鈴木康之、本多博之

3) 客員共同検討会

第3回客員共同検討会

(2019年10月5日(土)・6日(日) 於：益田市立市民学習センター・島根県立石見美術館)

中司健一(益田市教育委員会)「室町・戦国期における益田氏・吉見氏の対立とその諸側面」

倉恒康一「中世石見吉見氏に関する基礎的考察」

目次謙一「九州地方北部の吉見氏関係史料」

廣江耕史「津和野町の中世土師器」

参加者：客員研究員3名、職員7名、県内関係機関職員9名、オブザーバー1名

第4回客員共同検討会

(2020年2月23日(日)・24日(月) 於：津和野町民センター・吉賀町雲松寺・同町那智神社)

間野大丞(島根県埋蔵文化財調査センター)「東仙道土居遺跡の中世石造物と石材」

岩崎仁志(山口県埋蔵文化財センター)「防長型瓦質土器の変遷と分布」

目次謙一「中世石見国の銭貨流通とその変遷」

参加者：客員研究員4名、指導者2名、職員8名、県内関係機関職員7名、オブザーバー1名

4) 資料調査等

2019年4月12日：下瀬山城跡(津和野町)の調査

2019年5月7日：陶晴賢本陣跡・鷺取城跡(仮)および下瀬山城跡周辺石造物(いずれも津和野町)の調査

2019年5月24日：島根県立古代出雲歴史博物館所蔵史料および聖徳寺(浜田市)所蔵資料の調査

2019年5月29日：津和野町郷土館所蔵沖本文庫の調査

2019年6月20日：山口市阿東徳佐所在石造物および三之瀬城跡(吉賀町)の調査

2019年7月25日・26日：土師器・石造物調査検討会、於：益田市美都総合支所

2019年7月30日：黒周中山八幡宮(益田市)所蔵資料の調査

2019年9月17日・18日：土師器調査検討会、於：津和野町民センター

2019年10月1日：森原下ノ原遺跡(江津市)の調査

2019年11月26日～28日：津和野町・山口県萩市・同周南市所在石造物・石材の調査

2019年12月5日・6日：土師器調査検討会、於：島根県埋蔵文化財調査センター

2019年12月10日：武氏八幡宮(山口県萩市)所蔵資料の調査

2020年1月16日・17日：個人および益田市所蔵史料の調査

2020年1月22日：島根県埋蔵文化財調査センター所蔵銭貨の調査

2020年1月22日～31日：益田市教育委員会所蔵銅鏡の調査

2020年2月5日～7日：山口市教委・山口県埋蔵文化財センター・萩市教委所蔵土師器・陶磁器の調査

2020年2月24日・25日：益田市・津和野町内石造物の調査

5) 関連研究会等参加

2019年9月14日～16日：第52回日本古文学書学会大会 於：島根県芸術文化センターグラントワ

2019年11月2日：第112回歴史フォーラム「中世益田の世界」 於：島根県芸術文化センターグラントワ

(7) 古代出雲と吉備の交流

1) 目的

考古学によって従来からしてきさされていた、弥生時代から古墳時代にかけての出雲（山陰）と吉備の交流について、現段階での研究レベルに基づいて再評価を行う。また、両地域の関係について考古学、文献古代史、自然科学の分野から検討を行い、汎列島的な国家形成以前の地域間交渉と地域形成の関係性を明らかにする。

2) 活動概要

本年度から3カ年計画で、岡山大学が参加する国際共同研究プロジェクト（Be-Archaeo）と連携して実施。研究初年度は、出雲－吉備交流の先行研究を踏まえて論点を整理し、研究課題の共有と研究の方向性を決定することとした。併せて理化学分析等を活用した研究の見通しと、両地域の交流を考える上で欠くことのできない土器の胎土分析について、課題と分析作業の方向性等を確認した。

また、併行してBe-Archaeoで実施する理化学分析用の試料を選択するための資料調査を実施し、岡山大学・欧州の研究者が開催するワークショップ等に参加した。

〔担当〕 勝部智明、原田敏照、平石充、是田敦、松尾充晶、岩本真実、神柱靖彦、澤田正明、池淵俊一、田原淳史、伊藤智、稲田陽介、岩崎孝平、真木大空、上山晶子

〔客員研究員〕 宇垣匡雅、會下和宏、大久保徹也

〔共同研究者〕 今津勝紀、清家章、光本順

3) 客員共同検討会

第1回客員共同検討会（2019年10月6日（日） 於：古代文化センター）

勝部智明「出雲－吉備交流の研究状況と課題」

平石 充「古代史的視点での先行研究評価と課題」

上山晶子「理化学分析を活かした研究見通し」

真木大空「弥生時代中期後半における出雲と吉備の交流－塩町式土器を中心に－」

参加者：客員研究員3名、共同研究者3名、職員13名、県内関係機関職員3名

第2回客員共同検討会（2020年3月15日（日） 於：古代文化センター）：延期

北島大輔「弥生時代祭器と人体表現」

勝部智明「吉備系土器出土遺跡集成(山陰)」

池淵俊一「出雲地方出土の吉備系土器」

宇垣匡雅「特殊土器をめぐる研究の現状・課題(吉備)」

山口莉歩「楯築遺跡を中心とした特殊器台の製作体制」

會下和宏「弥生時代鉄器の様相」

参加者：客員研究員3名、共同研究者3名、ゲストスピーカー2名、職員16名、オブザーバー2名

4) 資料調査等

2019年4月18日：埋蔵文化財調査センター収蔵の吉備系土器胎土分析資料調査

2019年8月27日：岡山県鳶尾塚古墳発掘調査見学

2019年9月3日～11月2日：上野遺跡・熱ルミネッセンス線量測定

2019年10月21日：埋蔵文化財調査センター所蔵ガラス玉類資料調査

2019年10月25日：上野遺跡・弥生土器資料調査

2019年11月25日～28日：突帯文土器（原田遺跡・古屋敷遺跡）考古地磁気年代研究資料調査

2019年12月6日・11日：弥生前期土器（西川津遺跡）考古地磁気年代研究資料調査

2019年12月20～26日：原田遺跡他出土土器の考古地磁気年代研究資料調査

2020年2月13日：ガラス玉（県教委所蔵品・順庵原1号出土品）光ファイバー反射分光分析(於：岡山大学)

5) 関連研究会等参加

2019年10月26日：日本考古学協会 岡山大会

2020年2月18日～20日：Be-Archaeoワークショップ（於：岡山大学）

2020年3月23日～28日：Be-Archaeo関連トリノ大学等研究・活用施設視察・研究交流：延期

(8) 近世近代の交通と地域社会経済

1) 目的

1. 近世近代の島根県域において展開した経済活動や人の移動について、交通史の視角から追究する。
2. ①輸送主体（船・鉄道）や輸送拠点（港・駅）に注目しその歴史的な意義や変遷過程について、②近代化において交通の果たした役割について、③人の移動とりわけ旅行史の観点から旅における社寺参詣や観光と交通の関わりについて、その具体像を明らかにする。

2) 活動概要

研究初年度の本年度は、主に先行研究の整理や基礎資料の調査、収集を行った。また客員研究会を2回開催して情報共有を図るとともに、意見交換によって今後の研究の方向性などについて議論した。

〔担当者〕中安恵一、石山祥子、目次謙一、面坪紀久、熱田貴保、東山信治、矢野健太郎、東森晋

〔客員研究員〕木部和昭、平山昇、下向井紀彦

3) 客員研究会

第1回客員研究員共同研究検討会（2019年9月28日～29日 於：古代文化センター）

〔研究報告〕

中安恵一「近世近代の交通と地域社会経済」について－研究史の整理－」

東森晋「近世・近代の石見焼の研究」の成果と課題」

中山玄貴「史料紹介 出雲市調査の交通関係史料について」

〔巡見〕美保関

参加者 客員研究員3名、調査協力者1名、県職員8名、オブザーバー1名

第2回客員研究員共同研究検討会（2020年2月29日～3月1日 於：古代出雲歴史博物館）

〔研究報告〕

中安恵一「日本海海運の数量的把握の試み」

木部和昭「長門・石見国境地域の廻船と交易」

沼本 龍「明治期の島根県における陰陽連絡鉄道計画について」

矢野健太郎「内国通運会社松江分社関係史料の紹介」

〔巡見〕宇龍、鷺浦、大社駅

参加者 客員研究員3名、調査協力者2名、県職員5名

4) 資料調査等

2019年4月23日 島根県立図書館所蔵資料の調査

2019年5月23～24日 広島県立文書館所蔵資料の調査

2019年5月27日・11月26日 松江歴史館所蔵資料の調査

2019年7月12日 島根県公文書センター所蔵資料の調査

2019年9月9日 隠岐の島町教委所蔵資料の調査

2019年12月19日 物流博物館資料の調査

2019年12月20日 國學院大學日本文化研究所所蔵資料の調査

2020年1月11日 出雲市江田町恵比須神社蔵所蔵資料の調査

2020年1月18～19日 松江歴史館所蔵資料の調査

2020年1月27日 鉄の歴史村地域振興事業団寄託資料の調査

5) 関連研究会等参加

2019年8月22日 社会経済史学会近畿部会シンポジウム

「鉄道と社寺参詣－地域社会への影響と経済効果－」への参加

〔3〕古代歴史文化に関する共同調査研究

(1) 研究テーマ「古墳時代の刀剣類」

古代歴史文化にゆかりの深い県が互いに連携して、個々の地域的な研究だけでは見えにくかった日本の大きな古代史の流れを解明することを目的に、平成26年に古代歴史文化協議会を設立。以来、共同で調査研究をおこな

い、その成果を活かしてシンポジウムや展覧会などを開催し、全国に向けて情報発信をおこなっている。島根県知事が協議会会長をつとめており、島根県古代文化センターは協議会事務局として活動の総務を担当する。平成26～30年度は研究テーマを「古墳時代の玉類」とし、平成30年度には成果図書の刊行、展覧会の開催などをおこなった。今年度からはあらたに「古墳時代の刀剣類」をテーマとして、第2期の共同調査研究を進めている。

① 研究集会

- ・第10回研究集会（2019年8月7日～9日、奈良県立橿原考古学研究所）

基調講演「古墳時代刀剣研究史」（齋藤大輔氏）、各県報告、分科会の設置と考察テーマに関する議論、資料見学

参加職員：丹羽野、中島、平石、片平、是田、松尾

- ・第11回研究集会（2020年1月29日～31日、岡山県庁分庁舎）

基調講演「刀剣が語ること」（新納泉氏）、各県報告、分科会個別テーマ議論、資料見学

参加職員：丹羽野、中島、平石、片平、是田、松尾

② 第4回 古代歴史文化講演会の開催

研究の中間成果発表の場として、講演会（シンポジウム）を東京で開催。

1. 日 時 令和元年12月22日（日） 13：30～17：00
2. 会 場 明治大学アカデミーホール
3. 来場者 1,025名（無料、事前申し込み制）申し込み総数1,240名
4. 主 催 古代歴史文化協議会
5. 共 催 明治大学国際日本古代学研究クラスター
6. 内 容 開会挨拶 奈良県地域振興部次長 建石徹

基調講演 「刀剣から読む古代朝鮮と倭」金宇大氏（滋賀県立大学准教授）

パネルディスカッション 「刀剣が語る古代国家誕生」

〔パネリスト〕 金 宇大（基調講演講師）

若狭 徹（明治大学文学部准教授）

青笹 基史（埼玉県立さきたま史跡の博物館）

角正 淳子（三重県文化振興課）

黒石 哲夫（和歌山県文化遺産課）

松尾 充晶（島根県古代文化センター）

■古代文化情報発信事業

〔1〕古代文化講座

1. 東京開催 島根県古代文化講座（全4講）『出雲とヤマト』

会 場 日比谷コンベンションホール（東京都千代田区日比谷公園）

第1講 「弥生時代におけるヤマトと出雲の儀礼系譜 ―縄文の記憶・文明の技―」

日 時 6月9日（日）13：30～15：00

講 師 寺前直人（駒澤大学文学部教授）

参加者 200名

第2講 「古墳出現期の出雲とヤマト」

日 時 6月23日（日）13：30～15：00

講 師 北條芳隆（東海大学文学部教授）

参加者 200名

第3講 「古事記・日本書紀からみた出雲と大和」

日 時 7月14日（日）13：30～15：00

講 師 平石 充（島根県古代文化センター）

参加者 200名

第4講 「古墳時代における出雲と大和」

日 時 8月3日(土) 13:30~15:00

講 師 丹羽野裕(島根県教育庁参事)

参加者 200名

2. 大阪開催 島根学講座in大阪(全2講)

会 場 大阪歴史博物館講堂(大阪府中央区大手前4丁目1-32)

主 催 島根県(観光振興課、大阪事務所との共催)

第1講 「玉からみたヤマト王権と出雲」

日 時 10月5日(土) 13:30~15:00

講 師 廣瀬時習(大阪府立近つ飛鳥博物館副館長)

参加者 254名

第1講 「埴輪が結ぶ出雲と大和」

日 時 11月16日(土) 13:30~15:00

講 師 高橋克壽(花園大学文学部教授)

参加者 240名

3. 松江開催 出雲国風土記連続講座(全4講)

会 場 松江テルサ テルサホール

第1講 「日本神話の受容と変容」

日 時 9月14日(土) 13:30~15:00

講 師 及川智早(帝塚山学院大学教授)

参加者 210名

第2講 「風土記が語る大穴持命の故地」

日 時 10月14日(月・祝) 13:30~15:00

講 師 内田律雄(島根県埋蔵文化財調査センター)

参加者 220名

第3講 「古代遺跡からみた出雲国誕生」

日 時 11月24日(日) 13:30~15:15

講 師 大橋泰夫(島根大学教授)

参加者 212名

第4講 「風土記神話の表現世界」

日 時 12月15日(日) 13:30~15:00

講 師 谷口雅博(國學院大學教授・國學院大學古事記学センター長)

参加者 220名

4. 隠岐国巡回講座・ワークショップ

第20回 リレートーク「隠岐の津波 ―その痕跡と歴史」

日 時 8月3日(土) 14:00~15:30

会 場 隠岐開発総合センター1F和室

講 師 酒井哲弥(島根大学総合理工学部教授)「島根県東部・鳥取県西部で実施した津波堆積物調査の成果」
倉恒康一「文献資料からみる隠岐の津波」

参加者 20名

第21回 「隠岐の鮑からみた近世後期の俵物増産政策―「資源繁殖」の時代・前史―」

日 時 9月8日(日) 14:30~16:00

会 場 隠岐島文化会館2F集会室

講 師 高橋美貴(東京農工大学大学院教授)

参加者 35名

5. 石見国巡回講座・ワークショップ

第17回 「伝えられた祇園祭と鷺舞」

日 時 9月28日(土) 14:00~15:30
会 場 藩校養老館
講 師 河内将芳(奈良大学文学部教授)
参加者 40名

第18回 「丸山城跡をたずねてみよう」

日 時 11月17日(日) 13:00~15:30
会 場 川本北公民館・丸山城跡
内 容 事前学習 講師/目次謙一
現地見学 講師/吉川 正(前邑南町田所公民館長)
参加者 34名

〔2〕古代出雲文化シンポジウム

古代出雲文化シンポジウム『出雲と大和ーヤマト王権成立前夜ー』

日 時 8月31日(土) 14:00~17:30
会 場 有楽町朝日ホール(東京都千代田区)
主 催 島根県・島根県教育委員会
内 容 基調講演 松木武彦(国立歴史民俗博物館教授)「吉備から見た古墳出現期の出雲と大和」
映像 「出雲と大和ーヤマト王権成立前夜ー」
報告1 「古墳出現前夜の出雲」池淵俊一(島根県教育庁文化財課調整監)
報告2 「大和ーヤマト王権成立前夜ー」北井利幸(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館主任学芸員)
パネルディスカッション「出雲と大和、吉備から見るヤマト王権成立前夜」
パネラー 松木武彦・北井利幸・池淵俊一
司会 田中央生(早稲田大学文学学術院教授)
参加者 700名(申込者数名2,528名、抽選)

〔3〕第7回古代歴史文化賞記念行事

第7回古代歴史文化賞決定記念イベント『古代出雲と古典文学』:中止

日 時 2020年3月15日(日) 13:30~17:00
会 場 くにびきメッセ3F 国際会議場
主 催 島根県、島根県古代文化センター
内 容 第1部 受賞記念講演
鈴木宏子(大賞受賞者、千葉大学教授)「『古今和歌集』の創造力」
第2部 シンポジウム「古代出雲と古典文学」
講演1:橋本雅之(優秀作品賞受賞者、皇學館大学教授)「出雲国風土記の神話と伝説」
講演2:坂江 渉(ひょうご歴史研究室研究コーディネーター)
「古代の神話・伝承が果たす役割ー『播磨国風土記』を中心にー」
鼎談 「古代出雲と古典文学」
(パネラー)橋本雅之、坂江 渉、平石 充(島根県古代文化センター)

■その他の情報発信

〔1〕山陰中央新報社

①「いまどき、島根の歴史」（毎週土曜日文化欄に連載）

2019年4月6日（第83号）～2020年3月31日（第122号）掲載。現在継続中。

執筆者：平石、原田、勝部、是田、目次、松尾、吉永、佐藤、石山、中安、野々村、岩本、面坪、橋本、品川

②その他松江講座・古代出雲歴史博物館企画展紹介記事など。

執筆者：岩橋、平石、東山、角田徳幸、米田克彦、谷沢亜里、及川智早、内田律雄、大橋泰夫、谷口雅博

〔2〕古代文化センターFacebook <https://www.facebook.com/shimane.kodai>

2019年4月～2020年3月の間に12回更新。

（4～6月：2回、7～9月：4回、10～12月：2回、1～3月：4回）

■刊行物

①『古代文化研究』第28号 2020年3月刊 A4版

②『しまねの古代文化』第27号 2020年3月刊 A5版

③『古代出雲ゼミナールVI－古代文化連続講座記録集－』2020年1月刊 B6版(販売：ハーベスト出版)

・テーマ研究調査報告書

④第23集『前近代島根県域における環境と人間』2020年3月刊行 A4版

⑤第24集『たたら製鉄の成立過程』2020年3月刊行 A4版